



今回の旅で偶然にも同期間にBMX WORLD CHAMPIONSHIPS BOGOTA、BMXレースの世界選手権が開催されていた。

強豪国のコロンビアは、この競技において二つのゴールドメダルを獲得しているという。会場は国を挙げて作り込まれ、競技を応援する人々の熱狂が伝わってくる。そこで、なんと日本人BMXレーサーの中井飛馬選手に再会する。彼は世界を舞台に活躍する中で、地球の裏側で偶然再会した出会いはとても嬉しいものだった。旅の中での、偶然の出会いには感動を感じる。

DAY 4

DAY 5

コロンビアのボゴタで行われたBMXジャムセッションに参加した。ジャムセッションというのは、コンテストではなく、その時の自分の見せたいことを皆でやりあう練習とコンテストの間のようなイベントで、とても楽しいものだ。このジャムセッションは、実は僕が来るという事で開催してくれたものだ。コロンビアでも日本のBMXシーンは、とても注目されていて、参加者は10歳から50歳までいて各々が本当に楽しんで乗っていた。30名を超えるライダーが集まり、新旧、多くのスタイルのライダーが存在するこのジャムセッションは、2000年代初頭の頃の日本のBMXシーンに似ていた。楽しさが溢れる瞬間だった。参加したライダーたちは、口を揃えて日本に行きたいと言っていた。それは、日本で行われていたKOG(KING OF GROUND)等の映像やフラットアークの映像などを見て、日本のBMXのレベルの高さを知っているからだ。このジャムセッションは、コンテストではなく、自分たちが自由にやりたいことを楽しむことができる貴重な時間だった。皆が心から楽しんでいる姿を見て、僕も本当に幸せな気持ちになった。BMXという道具を使って、僕は世界中の老若男女と会話することができる。この旅が不安だらけであったが、BMXによってずいぶん楽になっている。



DAY 6

UCIのBMXカテゴリーのヘッドマネージャーであるパートと再会した。オリンピック競技にBMX FREE STYLEを導入した彼との交流は、自分のしていることを進化させる上でたくさんのヒントとアイデアをもらえた。パートと一緒にボゴタのBMXショップやスポットを巡る中で、若い人の活気がある素敵な街に出会う。この街には何か特別なものを感じ、コロンビアをますます好きになっていく。自転車を通して、人と人との出会いを通じて、旅は広がりを見せる。



DAY 7

南米のコロンビアを訪れ、ボゴタ市内だけでなく郊外の山や小さな街も巡った。違う街に行くたびに違った文化や人々と出会い、その魅力にどんどん引き込まれていった。そして、今回の旅が自分にとっての最高のものになったことを確信した。自転車という道具を通して、新しい景色や友達、そして本当に素晴らしい出会いがたくさんあった。自転車が僕に与えてくれたこの旅の感動は、一生忘れることはできない。

自転車を通じて世界を旅することが新しい僕の夢になった。これからも自転車と共に、新しい景色や出会いを求めて旅を続けていきたいと思う。



profile>>>  
上原 洋 Hiroshi Uehara/元プロBMX選手、ファッションデザイナー、イベントプロデューサー。アパレルブランド「430」を運営する傍らUCI国際戦公認審査員の資格を持ち、世界選手権の審査員としても活躍中。旅が趣味で、旅での経験から自身の活動にインスピレーションを得ている。



旅をすること、それは間違いなく生きているということを実感し、豊かにするものだ。そして、その旅に自分を表現する最適な手段を持っていけることはとても心強い。自転車で世界はつながっているバイク紀行、コロンビア編。

Photo&Text / Hiroshi Uehara  
Special Thanks / Shinji Namekawa

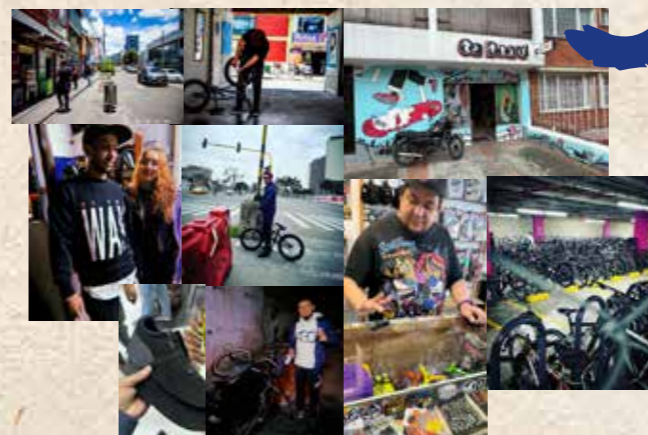
DAY 1

突然のコロンビア行きの旅。多くの人が理由を尋ねる。でも、僕にとっては、単純に行ってみたかった国なのだ。行ったことがない国に行くという冒険心と、南米のストリート文化に対する好奇心があった。もちろん、マフィアが存在や治安の悪さといった不安もあったが、それを取り払うために自分自身がこの国を経験してみたかったのだ。周りには、一人もコロンビアに行ったことがある人はいなかった。BMXを持って旅をすることも、大きな理由の一つだった。それによって、言語の壁を越えても友達を作ることができると思っている。南米のストリート文化とBMXの組み合わせは、僕にとって魅力的なものになると考えている。

BMXを持っていたことが、僕に素晴らしい出会いをもたらした。FACEBOOKを通じて知り合ったBMXライダー達と合流し、すぐにアミーゴ(スペイン語で友達)ができた。夜遅くにもかかわらず、彼らは僕を出迎えてくれた。心から感謝している。ホテルにチェックインして、明日のボゴタ探検に備えることにした。



DAY 3



今日はボゴタでエステバンと合流して彼が運営するBMXショップを訪れた。一見ただの駐車場のように見えたが、その一角でオンラインを中心に営業しているとのことだった。お金を生み出す仕組みを作りながら好きなことを続けるというエステバンのビジネススタイルには感銘を受けた。自転車の盛んなボゴタでは、このショップを含めてBMX SHOPが10店舗ほどあるという。この地域はアメリカ文化が強く受け入れられており、多くの人がBMXに乗っている。旅を通じて、同世代でありながら全く異なるビジネスや人生を歩んでいる人々と出会うことができるということは、非常に貴重な経験だと感じた。

今日はボゴタで現地のライダーたちに案内してもらって、FADEというコロンビア発のBMXシューズブランドの本社を訪ねることができた。そこで、手作りでシューズが作られる場面を見ることができて、ローカルのライダーをサポートする素晴らしいブランドだと感じた。また、市内にあるスケートボードショップも訪ねて、数店舗集まったエリアがあることを知った。スケートショップに行くのは、商品だけでなくその街の情報や文化が集まっていることが多く、ボゴタでもストリートカルチャーが根付いている証拠が見つかった。明日も期待が高まる。

朝

6時、目を覚ますと、ダウンタウンに程近いホテルの周囲をBMXで散策することにした。古い建物やバラックが立ち並び、東南アジアの雰囲気を感じる風景に、僕は興味津々。そんな中、お気に入りの小さなカフェを発見し、コロンビアのコーヒーを堪能することができた。そして、待ち合わせた現地のライダー、エステバンがBMXで来てくれた。彼は、本場コロンビア出身の生粋のBMXライダーで、弟と一緒にBMXショップを運営している。FACEBOOKで知り合い、彼の大会運営や信頼性の高さは確認してあった。二人でボゴタのストリートやライディングスポット、街のあらゆる場所をBMXで探検することになった。エステバンとの出会いは、まさに偶然の産物だったが、その後の体験は、自分が思っていた以上に興味深く、想像もしていなかった。コロンビアの魅力が、次第に僕の心に染み込んでいく...

コロンビアの旅で僕が一番驚いたことは、この国が自転車王国であることだ。自転車の日には、公道を車が走ることができず、自転車文化が全国的に盛り上がる。市内には、自転車屋さんしかいない通りがたくさんあり、自転車愛好家にはたまらない場所だ。

街中には、ヨーロッパ風の建築が立ち並び、アメリカンなスケーターカルチャーも広がっている様子。物価の安さも魅力的で、お腹いっぱい食べても日本円にして500円にも満たない価格。コロンビアの魅力は、物価だけではなく、ローカル感や文化、そして自転車王国としての側面もあることが分かった。コロンビアは、まさに素晴らしい旅先であり、自転車愛好家には特におすすめだと思う。

エステバンと一緒にボゴタ市内を回った。彼は、コロンビアのBMXシーンや近年の変化について、こちら辺でよく知られた話をたくさん教えてくれた。本当に勉強になるツーリングだ。この10年で、コロンビアは大きく変わったようだ。途中、かつては危険なエリアとされていた場所にも立ち寄ったが、今ではスケートパークやテニスコートに若者が集まり、元気いっぱい楽しんでいた。東洋と西洋、ヨーロッパ風と東南アジアの雑踏感が混ざり合った街並みに、不思議な感覚がある。コロンビアは、変化と挑戦の国だ。ここを訪れたら、その歴史と文化に触れることができ、とても興味深い経験になるだろう。

DAY 2

